

# コーカサスの歴史と料理とワインの旅

## 地勢

コーカサス地方のアルメニアとジョージア 2 国を訪ねる旅です。両国が位置するコーカサス地方は、大コーカサス山脈の南側にあって、西を黒海、東をカスピ海に囲まれた山がちな土地柄です。アジアとヨーロッパ、ロシアと



中東を結ぶ十字路に当たるため、古くから様々な民族が入り組んで暮らしてきました。地政学的に重要な場所であることから、長い歴史の中でペルシャ、トルコ、ロシアなどの各勢力が入り乱れる係争地ともなってきました。

両国ともかつては旧ソ連の構成国でしたがソ連崩壊後の 1991 年に独立、現在は共和制の独立国家で、日本とも友好的な関係にあります。

私たちが訪れる 6 月は山頂部に白い雪を冠ったコーカサスの山々やアララト山を背景に、木々の芽吹きや野山に咲き乱れる花々が楽しめる時期でしょう。

## ワイン

この旅の一番の特徴は料理とワインといえ

るでしょう。

コーカサス地方はワイン発祥の地として世界的に有名です。アルメニアのアレニ洞窟で約 6100 年前にワインを醸造していた遺跡が 2007 年に見つかりました。

今回の旅ではアルメニア、ジョージアともほぼ 2 日に一度はワイナリーを訪ねて、テイスティングを行います。粘土でできた素焼きの卵型の壺を地中に埋めて、果皮や種と共にブドウ果汁を投入、発酵と熟成を促す独特の製法（無形世界遺産）がみられるでしょう。酒が飲めない方やワインが嫌いな方は、この旅には不向きです。



クヴェヴリというワイン醸造用の甕

## 料理

コーカサスは歴史的にさまざまな民族が入り乱れる土地であったため、トルコやペルシャ、さらにはモンゴルなどの料理の影響を強く受けています。日本同様に四季があり、農作物が

豊富で、これらを肉や魚やチーズと一緒に調理する料理が多く、日本人好みだと言われています。地元の方の指導で伝統的な料理を作り、それをみんなで食べてみるという企画が数多く盛り込まれています。

一例をあげましょう。ご飯や肉をスパイスや香草で味付けしてブドウの葉で巻いた「ドルマ」という料理を作ります。訪問する6月には市場には束ねられたブドウの葉が山積みされているはずですよ。



ドルマ ブドウの葉でひき肉などを包む

## 世界遺産の宗教遺構

アルメニアが世界一古いキリスト教を受容した国であり、ジョージアが二番目であることから、古くて複雑な歴史を秘めた東方キリスト教関連の遺構がたくさんあります。

日本は木の文化、イランは土の文化ですが、両国は豊富な石材を使った石の文化が特徴だと私は思います。高いドラムにドーム構造を擁した円錐屋根、十字型の方形の変形設計など、独特の様式が知られています。ユネスコの世界遺産に指定された多くの修道院や教会が美しい自然の中に残されています。

またアルメニアのガルニ村にある「ガルニ神殿」は、太陽の神を祀ったヘレニズム様式の建築で、柱が整然と立ち並ぶ様はまるでギリシャ神殿のようだといわれています。



ジョージアのゲルゲティ三位一体協会

## アルメニア

アルメニアは、アゼルバイジャンとグルジアのほか、イラン、トルコと国境を接している内陸国です。人口約300万人の小さな国ですが、他民族の迫害から逃れるために国外に離散したアルメニア人が700万近くいるといわれています。

主な産業は農業・宝石加工業で、ブランドーの生産国としても有名です。

隣国のアゼルバイジャンと領土問題(ナゴルノ・カラバフ紛争)で緊張状態にあり、このためロシアとの協力関係を維持しており、国内にロシア軍基地が存在します。

国際紛争に関する分析や提言を続けるシンクタンク「国際危機グループ」(本部ブリュッセル)は、2023年に世界で注目すべき紛争として、ウクライナに次ぐ2番目に「アルメニアとアゼルバイジャン」を挙げました。紛争地ナゴルノ・カラバフを巡る両国の対立はそれほど、危



アルメニア・セヴァン湖と修道院

機感をもって世界から注目されています。

またアルメニア人虐殺に対する歴史認識をめぐってトルコとも激しく対立しています。

しかし隣国のイランとジョージアとの関係は良好で、移民が多い米国との関係も緊密で西側諸国はロシアとの間にくさびを打ち込もうと積極的に二国間援助を行っています。

2121年にナゴルノ・カラバフ紛争の敗北を巡って国内が動揺したため、パシニャン首相は辞任し議会も解散して事態の打開を図りました。選挙ではパシニャン首相が率いる与党が勝利したため、現在は内外政ともに安定した政権運営が行われています。

## ジョージア

ジョージアは人口約400万人の小さな国です。主要産業は、茶、柑橘類、果物、たばこ、ブドウ栽培を中心とする農業及び畜産業、紅茶・ワインを中心とする食品加工業、マンガンの採掘業です。

ジョージアは、親欧米路線で民主化と市場経済化を推進し、EU・NATO加盟を外交の優先

課題としています。ロシアは、この動きを好ましく思わず、両国間は緊張状態にあります。

一時はロシアと戦争状態に陥り、外交関係を断絶しましたが、現在は空路、陸路とも開かれていて、関係改善の努力がなされています。

昨年秋にプーチン大統領が、ウクライナ戦争のために部分的動員令を発表して以来、多数のロシア人がジョージアへの出国を試みているとのニュースがありました。

ジョージアは地政学的に西側諸国からも重要視されています。カスピ海沿岸部は、20世紀以後、石油・天然ガス生産が盛んとなり、ロシアを経由せずに、石油・ガスを欧州へつなぐ輸送回廊として、現在国際的に注目されています。



ジョージアの首都・トビリシ

ジョージアは、その屈強な身体を生かした「格闘技大国」です。レスリングは五輪でメダルを獲得し、柔道の強豪国でもあります。元小結の臥牙丸や黒海といった力士が大相撲にいましたし、いまも枌ノ心が頑張っています。